

特集 企業内診断士のパラレルキャリア

第2章

複業人材チームで取り組む 企業支援

松本 崇さん



鈴木 友也
東京都中小企業診断士協会

「距離や時間の制約を超えることで、支援できる企業がたくさんあります」

そう語る松本崇さんは、不動産デベロッパー勤務の傍ら、企業支援をはじめ幅広い分野で活躍する気鋭の若手診断士である。2020年に個人事業主として「pfwork」(ピーエフワーク)を創業、現在は複業人材チーム「BRMz」(ビーアールエムズ)の共同代表として企画運営も手がける松本さんに、中小企業診断士のパラレルキャリアと今後の働き方の可能性について伺った。

1. 中小企業診断士とパラレルキャリア

(1) 企業内診断士の診断士活動とは

「企業内診断士か独立診断士か、のように区別するではないですか。ずっとそれに違和感がありました」と松本さんは言う。



pfwork 代表の松本崇さん

たしかに、一昔前までは、企業内にいる限り勤務先で中小企業診断士の知識を生かすという選択肢が主流であった。1つの会社に勤めている限り、他の会社では仕事をしてはいけない。また、診断士活動を生業とするならば、独立して外に出る。そういう考え方が一般的だっただろう。それが今日では、1つの仕事をしていて、1つの勤務先があっても、複業という形で企業の外に出てビジネスをすることができる。

「企業内でも、時間の都合をつけることで、診断士資格を活用しながら勤め先以外で仕事ができる。そんな時代だから、もう垣根はなくなってきていると思っています」

松本さんが実感しているように、中小企業診断士の立ち位置も、今や二者択一というわけではなくなってきたといえよう。

(2) 自己研鑽としての資格取得

松本さんは大学卒業後、不動産デベロッパーに入社。オフィスビルの営業や事業企画部署を経験後、現在はグループ会社に出向し、J-REIT(不動産投資信託)のIR室長・企画部マネージャーを務めている。企画や財務会計など専門スキルとキャリアを着実に積み上げる一方、新卒で入社した会社に愛着を持ちながらも、企業に勤め続けるうえで、ある思いがあったという。

「これからの人生100年時代、長く主体的に働くために、常にスキルのアップデートをし

なければならぬことは間違いない。私たちくらいの世代は皆、そう思っているのではないのでしょうか」

松本さんが中小企業診断士の勉強を始めたのも、ビジネスに関する知識をより広く学びたいという自己研鑽のためであった。通勤電車や昼休憩の合間に事例を1つ頭の中で解いてみるなど、日中の隙間時間を勉強に充てながら、2019年度診断士試験に合格。翌年7月に診断士登録を行った。

2. 専門性を広く生かす環境づくり

(1) 対社内：新しい働き方の提案と実現

2022年の現在でこそ、企業の副業制度化も珍しいことではなくなり、副業のハードルは随分と低くなった。しかしながら4、5年前ともなると、松本さんの周りでも必ずしもそういった環境が整っていたわけではなかった。

「引き続きこの会社にいたい、貢献したいと思っても、できることが自己研鑽くらいしかないというのはもったいない。会社外でのビジネスを通じて得た経験をスキルアップにつなげられるのだとしたら、会社にとってはプラスではないか」

松本さんを含め同年代の4人で行っていた社内勉強会の発案で、2017年に人事部へ副業制度化を提案することになった。初めは思うように受理はされなかったが、翌年、翌々年と形やメンバーを変え提案を続けた。社内の賛同も得られ、次第に気運が醸成され、2020年、副業が制度化され、提案が実を結んだ。社内で副業が解禁されたのは、奇しくも松本さんの診断士試験合格直後のことであった。

(2) 複業開始と環境変化

松本さんは2020年7月の診断士登録に先駆けて、同年5月に個人事業主として「pfwork」を創業した。屋号に込められた2つの意味「professional work：専門性」と「portfolio work：複業」が表すように、診断士登録1年目から企業の経営支援に加え、書籍の執筆や

研修プログラムの開発など多くの案件に携わった。

あくまで「自身が目指すスキルアップにつながるかどうか」を仕事選びの軸としているという。そのため、診断士活動という枠にはこだわらず、「中小企業診断士として複業を行うというより、中小企業診断士でもある私が複業を行っているというイメージ」と自身の立ち位置を表現している。

2020年春といえば、ちょうど新型コロナの感染拡大が始まり、診断士業界でもリアルの交流が激減した時期である。診断士同士のつながりや接点の持ち方にも転換が求められる中、松本さん自身も「一緒に何かに取り組むことで生まれるつながり」の重要性を実感したという。プロジェクトメンバーやチームとして物事に取り組む過程で、気の合う仲間を見つけることや学びを得る機会につながった。そういった企業外での横のつながりこそが、今でも複業活動の土台となっているそうだ。

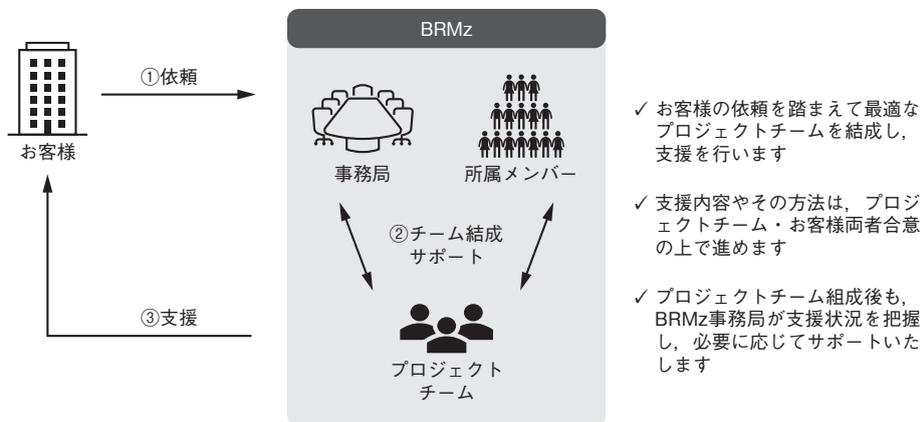
(3) 対社外：チームで取り組む支援体制

普段から依頼案件は断らないように心がけているという松本さん。しかしながら、個人事業主として複業をスタートさせて1年たった頃、活動を順調に広げていく一方で、一人ではとても手に負えない規模の案件が舞い込むなど個人であることの限界も次第に見え始めたという。若手複業人材チーム「BRMz」の構想は、実務従事者で知り合った同期仲間との勉強会から生まれた。

「Business Research by Millennial and Z generation」の頭文字を取り、ビジネスの現場に近く社会貢献意欲も強いミレニアル世代やZ世代を集めたチームを組織する。中小企業診断士を複業人材としてチーム化することで、個人で受けた依頼案件の時間的な制約と質的な担保を、その時々に対応可能な人材と専門スキルの共有を行うことで解決しようという狙いであった。2021年7月にホームページを立ち上げ、本格的なスタートを切った。

「複業人材でチームを組めば、どのような

図表 BRMzの支援体制



出所：https://brmz.jp/brmz/

依頼が来ても受けられる人がきつといる。支援の種類や支援先を限定しないことで、企業としては安心して依頼ができるはず。その企業に合う人材をチームとして必ず出しますとコミットすることが、企業としても助かるだろうと思ったのです」

複業人材の組織化は、企業側にとってもメリットが大きい。企業が複業人材を探すときには、相性も含めてある程度の目利きをしなければならない。その過程から請け負うことで、企業側の負担軽減ができればよいという。

複業人材というキーワードの今後の広がりを見据え、複業の事例やノウハウなど情報発信も積極的に進めている。加えて、2022年春からはコミュニティメンバーの本格募集も開始している。

3. 複業時代の企業内診断士の可能性

(1) 専門性をいかに企業へ還元するか

複業が勤務先へ与える影響として、明確なシナジー効果を証明することは実際のところ簡単ではない。「このスキルが上がったからこの仕事ができるようになりました」とはなかなか断言できないためである。複業人材が企業に与える影響にはどういったものがあるだろうか。

「私の勤務先は不動産会社でオフィスを扱

っているため、基本的にはオフィスで仕事をするのが好きな人が多く、テレワークや在宅勤務が一般化してきている中でも、そのうちオフィスに戻ってくるでしょうという考え方が根強かったりします。私自身、たしかにオフィスに価値はあると思う一方で、会社の外にはそうでない価値観の人もたくさんいることを、複業を通じて実感しています。両者の価値観をしっかりと認識したうえで、今後のオフィスの在り方を考えていく必要があります。1つの会社にしか勤めていないと、業界の常識のようなものに縛られる傾向があるように感じます」

複業を通じて会社の外に出て、多様な経営者と話をする機会も多い。診断士同士の横のつながりや、他の士業との接点もある。会社の中にいるだけだと出ないような話題や意見、生まれ得ないような視野や人脈を勤務先に還元することが、企業内と企業外を行き来できる複業人材に期待される役割の1つであるといえよう。

(2) 遠隔地の企業への支援

昨今では、案件や専門人材のマッチングプラットフォームも多数存在している。営業活動や新規案件獲得にも活用しやすい環境となった。松本さんにも実際の支援事例を挙げていただいた。

いなばハウジング株式会社は鳥取県鳥取市の工務店である。松本さんはマッチングプラットフォーム「スキルシフト」を通じてデジタルマーケティングの支援をすることになった。「今までの営業ではダメだから、長い目で見てSNSを使っていきたい。今度はホームページもリニューアルしたいから力を貸してほしい」と、Zoomを利用したオンラインミーティングであったが、経営者の熱意や積極性をはっきりと受け取ることができたという。

東京と鳥取。どうしても会うことが難しい場合でもお互いの信頼関係を築くことで、距離が離れていても、初めての人であっても、画面越しのコミュニケーションで支援が可能なことを実感できたそうだ。

「これからの複業の在り方として、都心と地方という組み合わせはますます広がっていくと思います。私自身、物理的に離れていても企業支援ができるのだと自信になった経験でもありました」

マッチングプラットフォームは比較的単発の案件が多い中、松本さんは自治体とのつながりも深めながら、現在も鳥取県での企業支援に継続的に携わっている。

(3) 専門性を生かすチャンスはいくらでも

テレワークや在宅勤務をしているのならば、たとえば18時に勤務先の仕事を終えた瞬間に複業を始めることも可能だ。移動時間もなく、切り替えの時間もごくわずか。以前であれば、勤務先から支援先への移動など、訪問を行うために発生する時間的、距離的制約がどうしてもあった。当然、支援先の企業によっては訪問が必要なこともあるが、オンラインミーティングが受け入れられやすい世の中になったことはたしかである。こういった環境変化が複業に与えた影響は計り知れない。

「今や、距離や時間がある意味では跳び越えることができるようになったわけです。その障壁がなくなったことで新たに支援ができ、助かる企業がたくさんあるなら、私たちはその機会を積極的に活用したほうがよいと思い

ます」

現在の複業の在り方をそう捉えながら、企業内におけるパラレルキャリアについて、松本さんはさらにこう続ける。

「診断士資格取得後も企業に勤務している人で、『自分に何ができるのだろうか』と考えている人は多いのではないのでしょうか。まだ顕在化していないかもしれませんが、自身の持つ専門性が求められる場面はきっとあるはずで、今後もさらに増えると思います。そうなったときに、『企業内診断士だから支援できません』とか『離れているから支援できません』というのはやはりもったいないと思います」

中小企業診断士が企業内の枠にとらわれず、広く社会に出て活躍の場を広げていく。松本さんのこれまでの経験やビジョンを伺いながら、近い将来の働き方、中小企業診断士のパラレルキャリアの在り方に関するヒントが見えてきたように思った。

松本 崇

(まつもと たかし)

東京大学経済学部卒業後、不動産デベロッパーに入社。営業、事業企画、J-REITのIRなどに従事。2020年に個人事業主としてpfworkを創業。同年中小企業診断士登録を行い、複業で企業支援を開始。2021年には複業人材集団のBRMzを共同で設立。複業人材チームでの企業支援や、複業人材で作るコミュニティの企画運営を行っている。



鈴木 友也

(すずき ともや)

名古屋大学文学部卒業後、教育系出版社に入社。全国の学校・学習塾対象出版物の物流、生産管理を担う。2021年中小企業診断士登録。

